



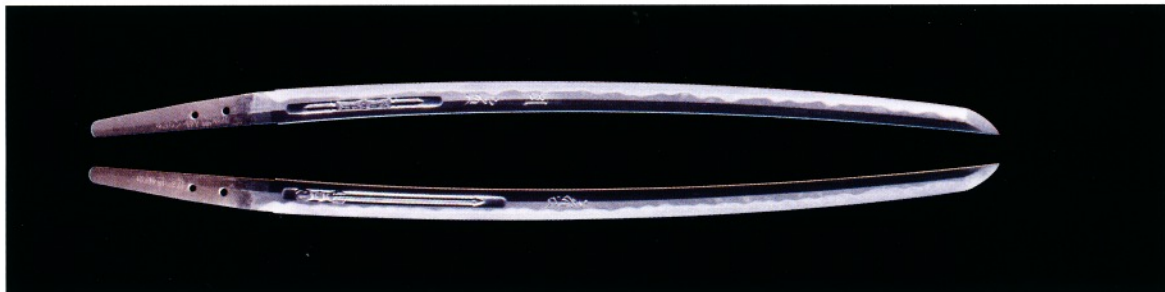
平成29年度マイミュージアムギャラリー第1回展示
日本美術刀剣保存協会 岐阜県支部 創立60周年記念展

日本刀押形展

～幽玄美へのいざない～



—押形 小太刀 相州住廣正—



—写真 同作(重要刀剣)—

2017年 **4月22日** [土] – **6月18日** [日]

共催：公益財団法人 日本美術刀剣保存協会 後援：岐阜県教育委員会・関市教育委員会

あいさつ

押形(おしがた)とは形ある物に紙や布を押し当てて写し取る技法、およびこれにより制作されたものをいい、金石文(鐘銘・石碑等)の拓本や魚拓などのように、記録資料でありながら鑑賞の対象ともなる写実文化です。

刀剣を押形にする意義は、フロッターージュのようなファインアートの制作ではなく、刀剣研究用の資料採取にあります。本展の出品作はそれを鑑賞用に構成し、刀剣の魅力を伝える新たな表現手法としております。

こうしたまとまった数での展覧会は過去に例がなく、日本美術刀剣保存協会岐阜県支部の創立60周年を記念して、一般公開を致します。

日本美術刀剣保存協会 岐阜県支部長 近藤 邦治(岐阜市在住)



『往昔抄』



「押形 鶴丸文透鐔(無銘、肥後)」

今回の展覧会で出展される押形は、近藤 邦治氏が30数年にわたり採拓した中から38点の額装・掛け軸と、その対象になった刀剣14振り及び刀装・鐔などの資料を展観し、作品の解説を通じて刀剣の見どころや作刀された時代の歴史的背景を説明します。

近藤 邦治 (押形作者) 氏 紹介

一級建築士、平成12年3月 財団法人日本美術刀剣保存協会岐阜県支部 (旧名称) 第3代支部長に就任、平成25年5月 公益財団法人日本美術刀剣保存協会理事に就任、現在至ります。瀧山東照宮に重要文化

財太刀「正恒 (古青江)」、および伊奈波神社に重要文化財太刀「景依造 (古備前)」の額装押形をそれぞれ奉納しており、昨今は博物館から展示図録用の採拓依頼を受けることも多くあります。

刀剣研究の歴史は古く、最古の刀剣押形集『往昔抄』(写真)の底本は、戦国時代後期に土岐氏の被官、齊藤利安・利匡親子によって地元、岐阜で編纂されました。また近年では中津川市の刀剣研究家、加納友道先生 (故人) がさまざまな刀剣押形集を出版され、その卓越した技量に接した多くの刀剣愛好家が啓発されております。

刀剣研究において押形は欠くことのできない資料であり、刀剣に馴染みのない方でも、その魅力がご理解頂ける優れた媒体で

あります。

私も若い頃から数々の押形に親しんで刀剣に関する見識を高めてきており、また自ら採拓したことで得られた新たな知見も数多くありました。

このたび展覧会としては前例のない「日本刀押形展」を主催する運びとなりましたが、広く一般の方々にも押形の魅力に触れていただき、ひいては我が国古来の文化財である刀剣に関心を寄せていただければ幸いと存じます。

交通案内



休館日 毎週月曜日 (月曜日が祝日または振替休日の場合はその翌平日)
 入館料 無料 (ただし、博物館本館の展示を観覧される場合には、所定の入館料が必要です。)
 時間 9:00~16:30 (入館は16:00まで)

百年公園北口駐車場 (無料)

- ・東北陸自動車道 関インターから車で5分
- ・岐阜バス (小屋名バス停下車徒歩約20分)
- ※岐阜駅方面からは、岐阜バスバスターミナル又はJR岐阜駅14番乗り場でご乗車ください (岐阜関線、岐阜美濃線)
- ※関駅からは、関駅西側の関シティターミナルバス停からご乗車ください (岐阜関線)

